

多様な見方・考え方

● ねらい

同じ1枚の写真や絵を見ている、人々の捉え方は違います。その人の捉え方は、ものの見方、考え方、またそれぞれの状況、判断の違いから生じてきます。その人の捉え方に影響を与えるものとは何なのかを考えます。それは、その人が持っている価値観・気分・状況によって異なります。その多様なものの見方や考え方はどこから身についたものなのかを考え、それがどう影響していくのかを考えます。

● 基本概念

見方、考え方、価値観、気分や状況、周りや社会への影響

● 時間

100分

● 準備するもの

絵(参加人数分)〈27ページ〉
A4白紙(参加人数分)
模造紙(グループ数)
マーカー(グループ数)
ホワイトボード

● プログラムの流れ

自己紹介で何をきく？

あなたが、自分を表すのに自己紹介で相手に伝えたいことは何ですか。
また相手を知ろうとしたとき、何を聞きますか。
私たちが相手に対してもつ関心・興味の違いについて話しあいましょう。

【アクティビティ】
自己紹介インタビュー



関心や興味など、私たちが捉えているものは？

例えば、1枚の写真や絵を見て、人の捉え方の違いを共有してみましょう。
限られた情報・状況を示した絵をもとにお話をつくりましょう。それぞれのお話
に違いはありましたか。そのお話に影響を及ぼしているのは何でしょう。
同じ情報・状況を違うように捉えられるのはなぜでしょう。

【アクティビティ】
フォトランゲージでお話づくり



捉え方の違いはどこから影響を受けているのでしょうか？

ものの見方・考え方の概念について話しあいましょう。そして、多様な捉え方
のいいところ、こまったところを考えてみましょう。
では、多様な情報が悪影響にならないためにどうすればよいのでしょうか？

【アクティビティ】
ものの見方・考え方に影響を受けるもの

● アクティビティの進め方

● 自己紹介インタビュー (30分)

ウォーミングアップとして取り入れます。

自己紹介をするのに何を話すか考えてもらいます。2人組になり、考えたことを元に自己紹介をします。時間は1～2分程度、傾聴の姿勢で行います。

次に2人組を変えて、今度は相手を知るために何を聞かインタビューの内容を考えてもらいます。お互いに2～3分ずつインタビューをします。2つの自己紹介をしてどう感じたかを振り返ります。

〈傾聴のポイント〉

- 1) 心をむける: 「自分の番がきたら何を話そう」などほかの事を考えずに、話し手に集中します。
 - 2) 体全体で共感をあらわしながら: 姿勢や相槌など、全身で聴く姿勢をあらわします。
 - 3) 質問しない: 質問されると、それに答えなくてはならなくなります。ここでの傾聴は、話し手が好きなように話せることを大切にしたいので、質問はなしです。
- ※このポイントは、このアクティビティでのもので、「傾聴」一般のものではありません。
 ※質問はしないが、黙って聴くということではありません。「へえ」「なるほど」「それで」など、ふつうの応答や話を促す言葉は構いません。



ファシリテーターの問いかけ

「話す側と質問する側とどちらのほうがやりやすかったですか」
 「それぞれで話す/質問する項目はどのようにして決めましたか」
 「自分で話すときと、相手から質問されたときで、共通していた項目がありましたか」
 「相手によって選ぶ項目は違っていただけでしょうか」
 「項目の選び方についての特徴がありましたか。その特徴について話してみましよう」

● フォトランゲージでお話づくり (30分)

絵とA4白紙を各参加者に配り、その絵(現場)を見て、そこから状況や状態を想像し、お話をつくってA4白紙に書いてもらいます。

各グループ(4～5人)に分かれて、各自がつくったお話を共有します(傾聴のポイント参照)。

各グループでそれぞれが話したり聞いたりして、思ったことや気づいたことについて全体で話しあいます。



ファシリテーターの問いかけ

「どのようなお話になりましたか」
 「それぞれのお話を聞いて、いかがでしたか」
 「お話をきいて気がついたことがありましたか」

1



2

●ものの見方・考え方に影響を受けるもの (30分)

ものの見方・考え方に影響する要因を考えます。

上記、お話づくりから発展させます。それぞれが同じであったり、違っていたお話について、私たちが影響しているものは何かをブレンストーミングで全て板書します。

近くの人と2人組になり、ブレンストーミングで出たことで、人は同じものを見聞きしても違ったように捉えるのはなぜかを話しあいます。何か出来事があったとき、その出来事について多くの違いがあるのはなぜか考えます。

2人組から4人グループになって、違った見方や考え方で利点になること、難点になることを模造紙に書き出します。

そして、何か出来事があったときに、それについて伝えたり、聞いたりするとき、悪影響を与えないために私たちができることをグループで考え、発表します。

3



ファシリテーターの問いかけ

「お話づくりで同じだったこと、違っていたことから考えて、私たちのお話づくりに影響していることは何でしょうか」

「人は、同じ情報を見たり聞いたりしても捉え方が違うのはどうしてでしょうか」

「そのときの気分や過去の体験によって捉え方は違います」

「その違いに影響するのは何でしょうか」

「日ごろ、見たり聞いたりしていることを誰かに伝えるとき、その事実がどのように変わっていくのかを考えます」

「では、今の情報社会において、何か出来事があったとき、それについて伝えたり、聞いたりするとき、その出来事や情報が悪影響にならないために私たちにできることを考えてみましょう」

●ふりかえり (10分)



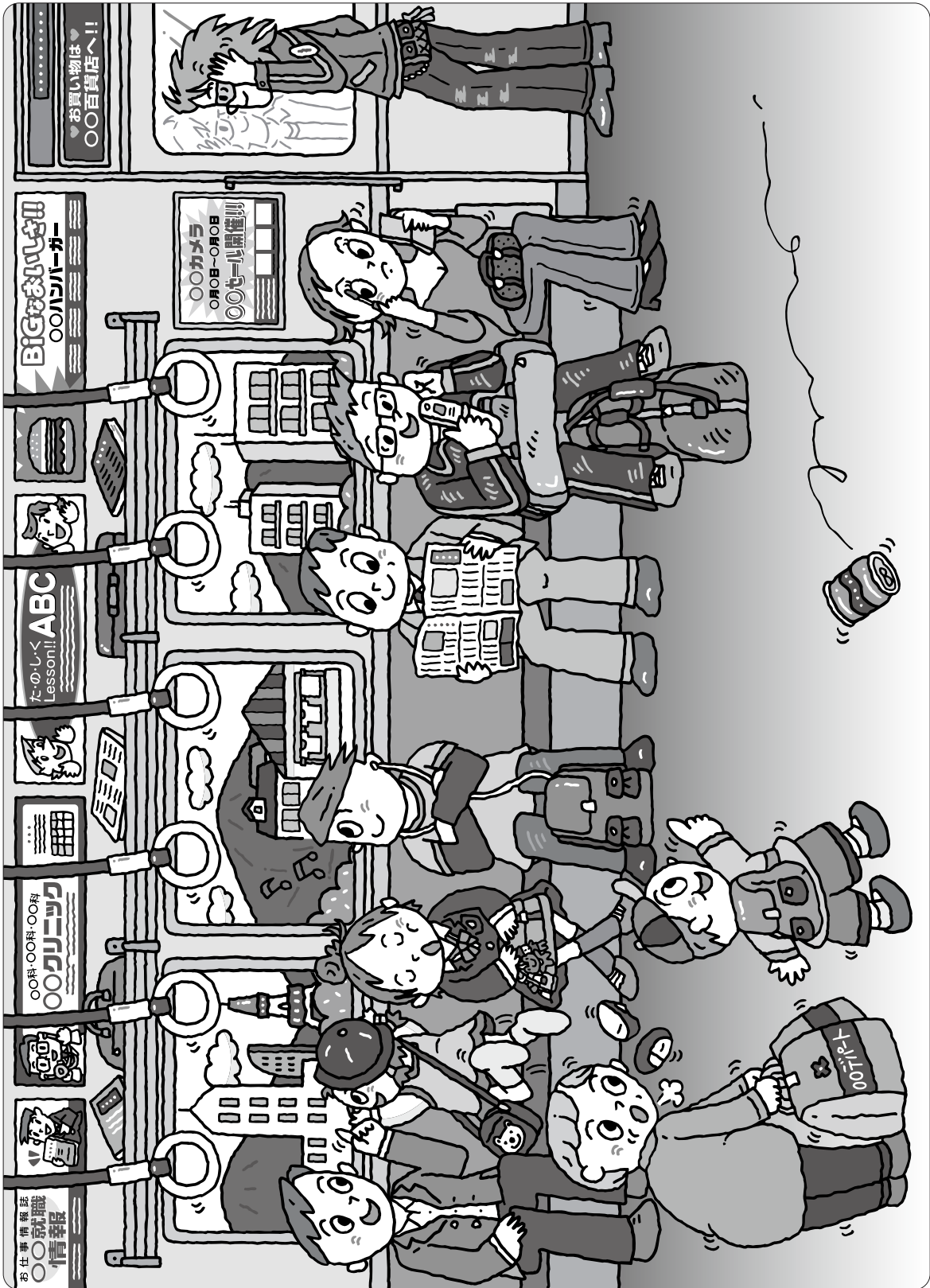
ファシリテーターのコメント

「多様な見方や考え方の違いは、私たちが日々経験したり見たり、聞いたりして身につけている個人の捉え方にあります」

「時には無自覚に身につけてしまっていることも、この捉え方の違いにはあります」

「それぞれの捉え方を否定するのではなく、なぜ、そう捉えるのかを深めていくことが大事です」

4



●ねらい

同じ1枚の写真や絵を見ている、人々の捉え方は違います。その人の捉え方は、ものの見方、考え方、またそれぞれの状況、判断の違いから生じてきます。その人の捉え方に影響を与えるものは何なのかを考えます。それは、その人が持っている価値観・気分・状況によって異なります。その多様なものの見方や考え方はどこから身についたものなのかを考え、それがどう影響していくのかを考えます。

学習に入る前に

- ・参加者との出会いを大切にしましょう。
- ・参加体験型で始まるというイメージづくりも必要です。
(詳しくは13ページ参照)

参加体験型学習の説明

○参加体験型学習とは

皆さん、こんにちは。

今日は参加体験型学習（ワークショップ）で、多様な見方・考え方について学びます。

「ワークショップ」というのは、もともと「工房・作業場」という意味、つまり何かを作り出す場、ということです。ですから、今日の参加体験型学習では、学びを作り出すことをめざしています。作り出すのは、参加者の皆さんです。やりとりしながら、それぞれの方にとって「なるほど」と思えることや「こうしてみよう」と思えることが生まれればよいなと思います。

○ファシリテーターの自己開示

今日のわたしの役割は、皆さんの気持ちや考えを大事にしながら進めていく役です。

皆さんと共に学ぶ気持ちでいます。共に実りある学びの場になりますようご協力ください。

ワンポイント

- ☆自分の気持ちや状態に向き合う。
- ☆参加者が不安にならないよう、簡単に自分の気持ちを伝える。
- ☆共に学ぶというスタンスを大事にする。

学習を始める

○学習のねらいの説明

今日の学習のテーマは「多様な見方・考え方」です。人権教育の中では「違いを豊かさ」ということが大切にされています。お互いの気持ちや考えは違って当然です。

特に、何かを見たり聞いたりしたことに対する人のとらえ方はさまざまです。それは、その人が持っている価値観や気分、状況によって異なります。

では、わたしたちの多様なとらえ方がどこから身についているものなのか、また一人ひとりの見方・考え方の違いが影響を与えるものは何なのか、それぞれの状況、判断の違いから多様なものの見方や考え方があることを学びます。

この学習では一方的な講義形式ではなく、皆さんの感じられたことや考えなどを大切にしながら共に学びます。

その見方・考え方が良いかどうか、正しいか間違っているかではなく、そのとらえ方の違いがなぜ起こるのかを一緒に考えます。

○ルールの説明

そのために、皆さんが安心して話せて、できるだけ本音で語り合える場にしましょう。

皆さんが安心して学びを深めるために必要なこととして、ここでは「協力」「尊重」をあげます。

黒板かホワイトボードの端に「協力」「尊重」と書く。
(ボードを作って貼っても良い)

「協力」を指す。

学習の場ですので、ぜひ皆さん、協力してください。もうすでにここに参加し、私の話を聞いてくれていることが協力になっていると思っています。

さらに、こちらからの問いやお互いの話し合いに対して出てくる皆さんの発言や表現、行動は、それぞれがお互いに大切にしていきたいと思います。

「尊重」を指す。

この尊重は、お互いを大切にするという意味です。例えば、誰かが発言したことは、この学習の後や他の場では、その人の許可がない限り勝手に持ち出さないことをお願いします。

(詳しくは13～14ページ参照)

1 自己紹介インタビュー (30分)

●自己紹介インタビュー (30分)

ウォーミングアップとして取り入れます。

自己紹介をするのに何を話すか考えてもらいます。2人組になり、考えたことを元に自己紹介をします。時間は1~2分程度、傾聴の姿勢で行います。

次に2人組を変えて、今度は相手を知るために何を聞くかインタビューの内容を考えてもらいます。お互いに2~3分ずつインタビューをします。2つの自己紹介をしてどう感じたかを振り返ります。

〈傾聴のポイント〉

- 1) 心をむける:「自分の番がきたら何を話そう」などほかの事を考えずに、話し手に集中します。
- 2) 体全体で共感をあらわしながら:姿勢や相槌など、全身で聴く姿勢をあらわします。
- 3) 質問しない:質問されると、それに答えなくてはならなくなります。ここでの傾聴は、話し手が好きなように話せることを大切にしたいので、質問はなしです。

※このポイントは、このアクティビティでのもので、「傾聴」一般のものではありません。

※質問はしないが、黙って聴くということではありません。「へえ」「なるほど」「それで」など、ふつうの応答や話を促す言葉は構いません。



ファシリテーターの問いかけ

- 「話す側と質問する側とどちらのほうがやりやすかったですか」
- 「それぞれで話す/質問する項目はどのようにして決めましたか」
- 「自分で話すときと、相手から質問されたときで、共通していた項目がありましたか」
- 「相手によって選ぶ項目は違っていただけでしょうか」
- 「項目の選び方についての特徴がありましたか。その特徴について話してみよう」

5分

自己紹介する
のに何を話すか
考えてもらう

5分

2人組になって
考えた項目で
自己紹介をする

5分

相手を知るため
に何を聞くか
考えてもらう

5分

2人組を変えて
お互いイン
タビューする

10分

ファシリテーター
の問いかけ

ステップ1

ステップ2

ステップ1

皆さんは初めて人と出会った時、自分のことをどのように伝えますか。自己紹介をする時に〈相手に伝えたい自分自身〉とは何でしょう。まず、自己紹介で何を話すか考えてください。

いまから2人組みのペアになっていただいて、自己紹介をしていただきます。近くの方とペアになってください。

ワンポイント

参加者の関係があまりない場合は隣どうし、または近くの人で2人組をつくる。
参加者どうし関係がある場合はできるだけ話をしたことがない人とペアを組んでもらう。

2人組になってもらう。
全体を見渡しなが、ペアが成立しているかどうか気を配る。

こんな場合

参加者が奇数の場合は3人組を作るか、主催者に入ってもらい偶数にする。
3人組を作った場合は、ペアで1分ずつの自己紹介をした後、3回目の1分をとる。
3回めの1分について、ペアはフリーに話をしておいてもらってもよい。

時間は1人1分程度にします。こちらで1分間計ります。

自己紹介の項目は名前や所属などですが、それ以外に自由に話していただいて結構です。

[板書の例]

自己紹介	
名まえ	
所属	
⋮	

項目を簡単に黒板(ホワイトボード)に板書する。

この1分間は話す人の1分です。聴く人はまずは傾聴をお願いします。
傾聴のポイントは次の3つです。 ※22ページ赤線囲みの部分を読む。

ステップ2

こんな場合

ほとんど反応なく、人権学習の枠組みで緊張した雰囲気もあり、「何を言ったらいいんですか」という発言が出るときもある。

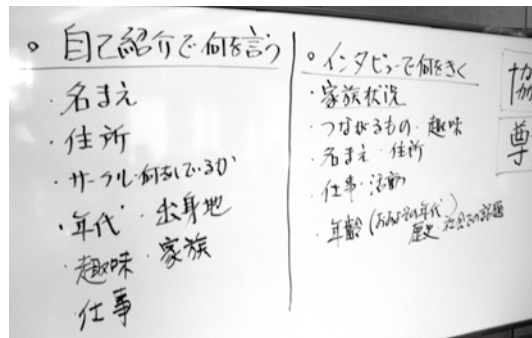
ご自分が自己紹介で伝えていることを思い出して考えてもらえばよい。

次に相手を知るために何を聞くか項目を考えてもらいます。
皆さんが相手を知るために聞きたいこと(インタビューすること)は何ですか。
初めての人に出会ったとき、こちらから聞きたいことです。

[先ほどの黒板を使って書き足す]

自己紹介	相手を知るために聞くこと
名まえ	名まえ
所属	⋮
⋮	

[実際の板書の例]



先ほどの2人組と違った相手を探して、新しい2人組を作ってください。

先ほどと違う人と2人組になってもらう。

今度は、板書した項目でも結構ですので、相手にインタビューしていただきます。
先ほどの自己紹介とは違って、相手が聞いてきたインタビューの項目に答えるというものです。

こんな場合

「何を聞いてもいいのですか」という参加者からの質問に対しては、板書で出してもらった項目でインタビューしても良いし、新たに聞きたい項目でも良いということを伝える。

パスもOK。必ず答えなくても良い、と伝えてもよい。

いま、自己紹介で話す側と質問される側とどちらがやりやすかったですか。

「話す方がやりやすい・・・」「質問で答える方がやりやすかった・・・」と、それぞれ感じ方は違うのではないのでしょうか。

それぞれの違いがありますが、では、話す項目と質問する項目はどのように決めましたか。自分で話すときと、質問されるときに共通した項目はありましたか。私たちは、どのようにしてこの項目を決めているのでしょうか。

2つの方法で自分の紹介をしてどう感じたか、先ほどの2人組で話し合ってください。

話し合いのようすを見て区切り、次に進む。

自己紹介で自分があたり前に話したり聞いていたことも、人によってはそうではない場合もあったのではないのでしょうか。

それぞれが無意識に判断していることや、相手に対して持つ関心、興味の違いについて深めていきましょう。

2 フォトランゲージでお話づくり (30分)

●フォトランゲージでお話づくり (30分)

絵とA4白紙を各参加者に配り、その絵(現場)を見て、そこから状況や状態を想像し、お話をつくってA4白紙に書いてもらいます。

各グループ(4~5人)に分かれて、各自がつくったお話を共有します(傾聴のポイント参照)。

各グループでそれぞれが話したり聞いたりして、思ったことや気づいたことについて全体で話しあいます。



ファシリテーターの問いかけ

「どのようなお話になりましたか」

「それぞれのお話を聞いて、いかがでしたか」

「お話をきいて気がついたことがありましたか」

10分

絵を見て
用紙にお話をつくってもらう

10分

グループで
話したりお互いのお話を聴く

10分

ファシリテーター
のコメント

参加者に絵と白紙 (A4程度) を配付する。

では次に、人それぞれが違うということを絵を使って考えてみましょう。
その絵を見て、それがどのような状況を想像し、それを説明するお話を作ります。
それぞれが、お話作りをします。作ったお話は白紙にメモしてください。
時間は3分程度計ります。

そろそろできましたか。まだ時間が必要な方はいますか。

こんな場合

書いていない人がいた場合、少し近づいて、「どうですか?」「難しいですか?」と、なぜ書いていないのか尋ねてみる。
その人が他の人の邪魔をしない限り、書くことだけを強制しない。

できましたでしょうか。では先ほどの2人組が集まって4人グループになってください。

ワンポイント

2人組の数が奇数の場合は、5・6人組でもかまわない。

作ったお話をお互いに聴き合しましょう。
どのようなお話になりましたか。2~3人に紹介してもらいます。
それぞれのお話を聴いて、いかがでしたか。

こんな場合

それぞれの話が紹介される中で、参加者の中で違いが明らかになる場合もあるが、この活動は正しいか間違っているかを判断するものではないことを伝える。
いろいろな見方・考え方で、多様な話が出ることを尊重する。
例えば、バスの中のようなすを描いた絵を見て、マナーについて攻撃的で批判的な話が出ることもある。
「あなたは、そのようなお話になったのですね。」とあくまでもお話作りという視点で受け止める。

話し合いが一区切りついたら次に進む。

一つの同じ絵を見ていろいろなお話が出ましたが、同じ部分があったり、全く違っ

たお話もありました。それぞれのお話を評価したり正しいか間違っているかを見つけ出すのではなく、この同じ部分や違うことについて、私たちのものの見方・考え方はいったい何から影響を受けているのかを考えてみましょう。

③ ものの見方・考え方に影響を受けるもの (30分)

●ものの見方・考え方に影響を受けるもの (30分)

ものの見方・考え方に影響する要因を考えます。

上記、お話づくりから発展させます。それぞれが同じであったり、違っていたお話について、私たちが影響しているものは何かをブレインストーミングで全て板書します。

近くの人と2人組になり、ブレインストーミングで出たことで、人は同じものを見聞きしても違ったように捉えるのはなぜかを話しあいます。何か出来事があったとき、その出来事について多くのくい違いがあるのはなぜか考えます。

2人組から4人グループになって、違った見方や考え方で利点になること、難点になることを模造紙に書き出します。

そして、何か出来事があったときに、それについて伝えたり、聞いたりするとき、悪影響を与えないために私たちができることをグループで考え、発表します。



ファシリテーターの問いかけ

「お話づくりで同じだったこと、違っていたことから考えて、私たちのお話づくりに影響していることは何でしょうか」

「人は、同じ情報を見たり聞いたりしても捉え方が違うのはどうしてでしょうか」

「そのときの気分や過去の体験によって捉え方は違います」

「その違いに影響するのは何でしょうか」

「日ごろ、見たり聞いたりしていることを誰かに伝えるとき、その事実がどのように変わっていくのかを考えます」

「では、今の情報社会において、何か出来事があったとき、それについて伝えたり、聞いたりするとき、その出来事や情報が悪影響にならないために私たちにできることを考えてみましょう」

5分

ブレインストーミングをし、出た意見を板書する

5分

2人組で板書したものをみて話す

15分

4人組で利点・難点を考え、3か条をまとめる

5分

悪影響与えないための3か条を発表する

ものの見方・考え方に影響する要因を考えます。

先のお話作りで同じだったこと、違っていたことから、私たちのものの見方・考え方に影響していることは何かをブレインストーミング (49ページ参照) で出し合います。

出てきたものを
ファシリテーターが板書する。

いまから新しい2人組を作ってもらいます。まだ話していない人を見つけ
て2人組になってください。

先ほど皆さんから出してもらったものを前に書きましたが、これを見ながら「なぜ、同じものを見聞きしても
違ったようにとらえるのか」を話し合
いましょう。

同じ情報を見たり、聞いたりしてもとらえ方が違うのはどうしてでしょう。そのと
きの気分やそれぞれの体験によってもとらえ方は違います。その違いに影響するのは
何でしょう。

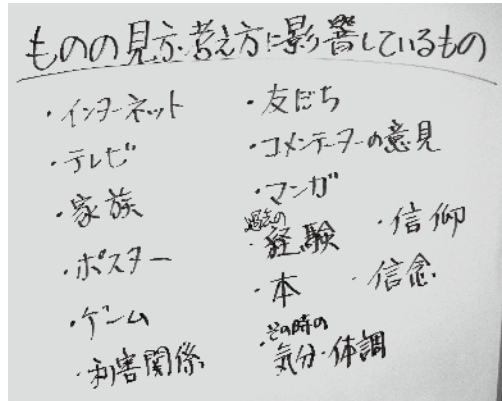
では2人組が2つ集まって4人組を作り、
机を出してください。

グループごとに机を出してもらい
模造紙とマーカーセットを配付する。

違った見方・考え方で利点になること、難点
になることを模造紙に書き出してください。

何かできごとがあったとき、それについて伝
えたり聞いたりすることに悪影響を及ぼさない
ように私たちができることを考えていただきま
す。配付された模造紙の余白を使って「悪影響
を及ぼさないためにできること、3か条」を書
いてください。

[板書の例]



[模造紙の例]

違った見方	
利点	難点
3か条	_____

ワンポイント

- ・全グループの発表が時間的に無理な場合は、発表を2~3グループにするか、自主的に発表するグループを募る。反応が鈍い時はより強く促す。
- ・時間がないが全グループの発表を共有したいときは、机の上に模造紙を広げたまま、全員が立ち歩き、見て回る方法もある。

4 ふりかえり (10分)

●ふりかえり(10分)



ファシリテーターのコメント

「多様な見方や考え方の違いは、私たちが日々経験したり見たり、聞いたりして身につけている個人の捉え方にあります」

「時には無自覚に身につけてしまっていることも、この捉え方の違いにはあります」

「それぞれの捉え方を否定するのではなく、なぜ、そう捉えるのかを深めていくことが大事です」

5分

全体を通して
感じたこと
気づいたこと

5分

ファシリテーター
のコメント

今日、全体を通して感じたこと、気づいたことはありますか。

2~3人から出してもらおう。

こんな場合

発言が出ない場合は、隣やまわりの人とふりかえってもらうよう促す。

今日の学習では、皆さんにある多様なものの見方・考え方をまず知ることから始め、そのとらえ方の違いがどこから身につけているのかを考えていただきました。

それぞれのとらえ方を否定したり批判するのではなく、なぜ、そうとらえるのかを深めながら、皆さんが無意識に身につけていることも見つけ出しましょう。

わたしたちのものの見方・考え方は何に影響されているのかを知ることができましたか。情報化社会といわれるいま、このようなとらえ方を常に意識したいものです。

あたり前に過ぎていく日々の、時には立ち止まって考えてみてはいかがでしょうか。今日は、多様な皆さんのご参加、ありがとうございました。

